

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成23年度第1回情報教育研究委員会分野別情報教育分科会 議事記録

I. 日 時：平成23年9月15日(木)午後2時～午後4時

II. 場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷

III. 参加者：真下委員主査、渡邊隆俊委員副主査、渡辺淳委員副主査 (Net)、金子委員、阿部委員、渡辺美智子委員、及川先生、角田委員、武藤委員、久原委員
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 委員の紹介

- ・ 分科会の主査を真下先生、副主査を渡邊隆俊先生と渡辺淳先生にお願いすることにした。

2. 今年度の情報教育委員会の活動について

- ・ 情報教育研究委員会は、大学における情報教育の在り方を総合的・体系的に提言していくため、3分科会でそれぞれの活動を進める。親委員会としては、分野別情報教育、情報リテラシー教育、情報倫理教育、情報専門教育のガイドラインについて、教育の導入・実施・点検改善の段階に応じた提言となるよう点検するとともに、大学教育での情報教育の位置づけ、カリキュラム、教員体制、教員指導能力の開発、学習支援体制、産業界との連携など教育の政策にかかわる課題・戦略について整理すること。また、情報の社会的問題フォーラムの開催を計画している。
- ・ 分野別情報教育分科会は、分野固有の教育に必要な情報活用能力に関連する教育実践の現状及び今後の取り組みへの考えを把握するため、ガイドラインに沿って調査を行うとともに、ガイドラインの実現に向けた課題、情報教育の位置づけ及び教員指導能力の開発など大学ガバナンスへの提言について探求することとしている。

3. 今年度の分野別情報教育分科会の活動について

- ・ 情報専門教育を除く30分野での情報活用能力に関する教育の実施状況及び今後の取り組みと課題について調査し、参考となる教育事例を収集・紹介することとしている。
- ・ 分科会の進め方は、分野別情報教育の調査票を作成し、調査方法も検討して、サイバーFD 研究員にネットで調査を実施する。回答結果を整理分析して、今後の取り組みに対する考え方、実施に伴う課題についての提言をとりまとめて、回答教員との継続的な情報交流を実施する仕組みも検討することとしている。
- ・ 調査は、分野別教育における「情報教育の実施状況」と「今後の情報教育への取り組み」で実施してはどうか。実施状況ではガイドライン到達目標、到達度の実施有無や、実施の場合に参考となる教育事例を提供いただき事例を紹介したい。情報教育を充実させるための課題の解決策は何か大学ガバナンス等に提示したい。分野ごとに詳細事例を Web で紹介して、取り組みが前向きな教員との意見交流を図る。
- ・ 高校ではタイピング、ワープロなど教育しているとの回答があるが、先生が教える自信あるかの回答が低く、社会と情報、情報の科学に変わるが教える先生がいないという課題がある。現状は情報専門の先生が少なく、カリキュラムが改訂になっても情報の科学を教えられる先生が育てられるのか懸念される。
- ・ 情報教育が大学の学士力として意識されているのか。組織的に、授業のなかで実現するのが望ましい。分科会として検討をして、委員が入っていない分野にも提示する。

4. 委員の意見

- ・ スケジュールとしては、調査をして3月末目途にまとめをしたい。調査イメージから項目を設定して集め方についても意見を求めたいとし、委員から以下の意見があった。
- ・ 心理学ではデータ解析に利用している。現状では統計処理で大量のデータを意味を理解できずに利用するケースもあり、正しい使用方法の理解が必要と考える。
- ・ 経済では、ワード・エクセル・パワーポイントができていれば社会にで利用できるとの見方がある。ただし、倫理については指導が必要と考え、情報を集めて表現するまでをしっかりと教育する必要性を感じている。
- ・ 会計では、企業内を数字でまとめることもあり、Net を使って検索・分析を行うが、教員によって温度差があり、科目によって差がでると思われる。
- ・ 統計では、高校の情報と科学の問題解決に統計分析が入ってきている、マネジメントも入ってきた。活

用する統計教育として表現力まで求められ、出力結果を読める教育が必要とされてきた。

- ・ 科学では、実験でデータ解析を行う。結果などをグラフ作成させても、だめな部分を教育指導する時間がとれなく、学生にこの授業では良い、この授業ではだめとする場合があり、深く説明する教育が不足していると感じる。統計解析が必要になっている。
- ・ 機械工学では、専門は細分化されているが、ものづくり中心の情報関連で検索、設計シミュレーション、安全、妥当性の判断、教養でリテラシーを教育している。専門では分野固有の事例があると考え、実施していなければ理由を聞いてみたい。
- ・ 建築では、CAD などデザインで取り組みがある。建築のアイデアは手書きであるとの考えもあるが、構造ではソフトで解析しているがソフトからの結果への信頼性に対する判断力が求められている。調査ではイエス・ノーでの回答が数値集計しやすいと考える。
- ・ 栄養では、女性が多く資格に縛られている。大学の格差や資格によって違い、到達目標によって聞く内容が違ってくると思う。資格の場合は時間が取れない、専門基礎で教育しているが、大学によっては設備が不足している。学生は感性で新しいことをして企業に売り込みたいと考えることが増えた。
- ・ 芸術では、ワード・エクセル・パワーポイントを希望せず、アドビソフトを希望する。絵などはPCを使わないが、情報収集・発信で使用すると思う。3D など数学的なソフトを利用する教育の課題対策はどうしているのかアルゴリズム的な考え方教育が困難と考える。
- ・ 医学では、臨床現場で5,6年生が使用する。実践的な能力・セキュリティ知識が必要で、モデルカリキュラムを中心に構成されている。リテラシーは入学時の格差が大きいことが課題。調査は実施していることに対して必要と感じているか、実践と必要性の対比ができないか。国家試験では信頼性などが出題されている。
- ・ 本日の欠席者と委員17分野以外の分野にも呼び掛ける形で、調査票として10月下旬を目途にとりまとめをしたい。回答率として10%取れるか、アンケートの負担が大きいと止めてしまうことも懸念される。期間は2週間程度で、サイバーFD 研究員と分野別委員を含めて調査を考えている。

4. アンケートについての意見

- (1) 専門では分野固有の事例があると考え、実施していなければ理由を聞いてみたい。
- (2) 調査ではイエス・ノーでの回答が数値集計しやすいと考える。
- (3) 大学の格差や資格によって違い、到達目標によって聞く内容が違ってくると思う。
- (4) 実践と必要性の対比ができないか。
- (5) 必要性や実施していない本音の理由として、箇条書きで考えられる選択肢を提示した方が良いのではないか、選択肢で必要性・重要度・実施度を聞くべきではないか。
- (6) 共通する部分と分野固有の部分をつくるのか、共通部分に達成度を付けて調査してはどうか。共通部分は、ガイドラインの1.(2) 分野別情報教育の内容・範囲の5項目を基本として、分野固有を組み合わせるかどうか。
- (7) 事例紹介は、アンケートと別に Web ページの URL を掲載するお願いにとどめてはどうか。
- (8) 情報活用教育としての参考事例なので、ICT 利用の事例ではない。
- (9) ガイドラインは4年間でのレベル想定のため、短期大学は別と考える。

5. 次回までの宿題

- ・ アンケートで事例を紹介いただくために、委員の先生方に参考事例のご提出をお願いした。
分野別に達成度から選んでいただき参考となる例を、「どういう授業をやっているのかの参考事例」「こんな授業で事例があればの説明」などでコンテンツ形式にこだわらず、リテラシーに特化したものは除き、専門で活用しているものとし、シラバスは除き、ユニークな現場情報を集められる参考事例をお願いした。

6. 次回の予定

- ・ 分野別情報教育のアンケート調査について継続して検討することにした。
- ・ 次回委員会予定 10月27日(木)17時から19時まで。